はじめに

このたびは, 京都大学藤子不二雄同好会 (京大 F 同) の企画に足を運んでいただき, またこの会誌を手に取っていただきありがとうございます.

まだ記憶に新しいですが, 藤子不二雄Ⓐ先生 (本名 安孫子素雄さん) が今年の 4 月に永眠されました. この場を借りて, 生前に発表された数々の作品と漫画文化への多大な貢献に敬意を表し, 先生のご冥福をお祈りします. 私が藤子不二雄Ⓐ先生の作品に初めて出会ったのは中学生のときで, それは一冊のブラックユーモア短編集でした. 社会の暗部や人間の露悪的な部分を抉りだす, 衝撃的な短篇の数々に心奪われたことを, 今でもよく覚えています.

また, 先生の代表作である『まんが道』からは, 相棒である藤子・F・不二雄先生との深い友情と同時に, 藤本先生に対する尊敬の念と, ある種の葛藤が窺えます. 藤本先生のことを「才野茂」, まさに才能の生い茂る人物として描いた我孫子先生には, 私たち読者には想像するに余りある思いがあったのだろうと推察します. 生前, 2019 年に瀬戸内寂聴さんとの対談において, 我孫子先生は藤本先生について, 次のように回想しています.

> 藤本君は天才ですから、20 歳、30 歳、40 歳になっても『ドラえもん』を描けたけど、僕はわりといろんな遊びをしてたから、だんだん子ども漫画を描くのが苦痛になってきてね。(中略)「俺、このまま描いてたらだめになるし、藤本のマネージャーになるしかないかな」と思ってね、悩んだんですよ。

「藤子・F・不二雄」と「藤子不二雄Ⓐ」は別の漫画家ですが, その境界は極めて曖昧なもので, 切り離して語ることはできません. おふたりが F とⒶに分離してもなお, この不可分性は “藤子不二雄” 的なひとつの世界観として君臨し続けており, しかし私は, その核心を言語化するすべを持ちません. それでも, ひとつ確信していることは, F とⒶに共通する “藤子不二雄らしさ” が存在し, 私たちはそこに取り付けられた F の扉とⒶの扉, そのいずれかの入り口をくぐり抜けて, この京都大学藤子不二雄同好会に集まった, ということです.

時には『ドラえもん』を, またある時には『まんが道』を語り, そうして, 私たちは複雑に絡み合う F とⒶの糸をほどきます. その結果, ふと新たな “藤子不二雄らしさ” を見出す瞬間の, すうっと視界が開けてゆく感覚 ..... これ以上の喜びはありません.

..... とまあ, なんだか大それたことを書きましたが, 私たち京大 F 同の会員は, それぞれ形は違っても, 等しく藤子不二雄の世界に魅せられ, 広大な藤子不二雄ワールドに迷い込んだ旅人のようなものです. いずれこの世界から抜け出したとしても, その心に F とⒶの輪郭は残るでしょう.

さて, 去年の京都大学 11 月祭はオンライン上で開催され, 京大 F 同もオンライン上で会員の記事を掲載しました. 今年は 2019 年以来の対面での開催ということで, 無事に紙の媒体で会誌を出すことができて私も安堵しています. それでは, 会員の熱い想いをぶつけた文章の数々をお楽しみいただければ幸いです.

京都大学藤子不二雄同好会 9 代目会長 前田悠陽